



香川県立中央病院
Kagawa Prefectural Central Hospital

れんけい

題字：松尾信彦書

香川県立中央病院広報誌「れんけい」第69号 発行者／香川県立中央病院 太田 吉夫 編集／広報委員会
〒760-8557 高松市朝日町一丁目2番1号 TEL.087-811-3333 FAX.087-802-1160

新年のご挨拶



院長 太田 吉夫

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当院の運営につきまして多大なご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新病院での診療を開始して、もう少しで3年になります。高機能医療機器等を活用し高度先進医療を提供すると共に、屋上のヘリポートを活用した救急医療などにも力を注ぎ、今後とも当院の基本理念である「香川県の中核病院として安全・安心な医療を提供し、県民や地域医療機関から信頼される病院」を目指しています。

ところで、エボラ出血熱などの一類感染症等の患者に対する医療機関として各都道府県に第一種感染症指定医療機関を置くことが求められていますが、香川県を含む数県で指定がされていませんでした。香川県では県知事の判断により、香川県立中央病院を第一種感染症指定医療機関に指定することが決まり、現在病棟の新築工事を行っており2017年1月末に竣工の予定になっています。この病棟を使わなければならないような事態が発生しないことを祈っていますが、万が一の場合に対応が可能なように準備を進めています。



感染病棟イメージ

当院の使命である高度急性期医療の提供という役割を十分に果たすために、急性期を脱し、症状が安定した患者については、地域の医療機関で継続治療が行えるよう、積極的に逆紹介を進めています。香川県においても、地域医療構想の策定が行われていますが、今後とも医療提供の機能分化、地域の医療機関との連携強化をはかり、地域で効率的な医療が提供できるよう努力して行きます。

今後とも当院との病診・病病連携にご協力頂き、これまで以上に皆様方との連携を深めていくことができますよう、ご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



場紹介

腫瘍内科の紹介

腫瘍内科・消化器内科 医長 岡本 邦男

腫瘍内科とは悪性腫瘍の内科的治療、すなわち抗がん剤治療を中心に診療を行う科です。また、がん患者さんへの最適な治療方針について、患者さんの病期、合併症や全身状態、希望などを考慮したうえで、外科、内科、放射線治療科などと連携をとり協議を行い、最適な治療方針を選択することも腫瘍内科医の重要な役割となっています。

現在、当院には日本臨床腫瘍学会の定めるがん薬物療法専門医が3名おり、それぞれ血液内科、呼吸器内科、消化器内科に所属し各領域のがん薬物療法を中心的に行っております。また原発不明癌と呼ばれるどの臓器にも属さない腫瘍や、非常にまれで標準治療のない希少癌などの化学療法にも対応を行っております。

私自身は、平成28年4月より香川県立中央病院に赴任し、腫瘍内科と消化器内科兼任にて消化器癌の薬物療法を中心に診療を行っております。平成28年4月～11月までの期間に入院対応123件と外来通院治療213件を担当しております。ほとんどが手術での根治が不能な進行癌患者さんですが、標準治療を行うこと、抗がん剤の副作用対策を充分に行うこと、また不要な入院期間を無くして可能な限り通院で抗がん剤治療ができるようにすることで、患者さんの生活の質（Quality of Life）を落とすことなく長期生存することを目指して治療が続けられるように努めています。

がんの薬物療法は医学の中では新しい分野であり、新薬と呼ばれる薬剤が毎年のように保険承認されています。これまではがんの治療といえば手術、放射線治療、抗がん剤治療が中心でしたが、近年においては免疫療法も新たになんがん治療のひとつの柱として加わっております。非常に新しい治療薬であり、まだ適応となる疾患も限定されております。またこれまでの治療では見られなかったような副作用が出現することも報告されています。新規薬剤や新規併用療法の登場により、これまで以上に薬物治療の専門性が高くなってきており、がん治療薬を専門に扱う腫瘍内科の役割が増してきています。今後も質の高いがん治療を提供できるように頑張りますのでよろしくお願い致します。



救急看護認定看護師の



救急看護認定看護師 救急部師長
平田 智子

当院には3名の救急看護認定看護師がいます。主な活動として、院内のスタッフ教育に取り組んでおり、急変発生時にいつ何時でも最善のチーム蘇生が行えるよう、各部署で行う急変シミュレーション訓練や、大規模災害発生時に、当院の使命である基幹災害拠点病院としての役割がはたせるよう、災害研修の開催などを実施しています。また今年度から新たに開始された、循環器患者・家族対象の心臓病教室で「家族を守る心肺蘇生法」と題して、毎月2回心肺蘇生講習（BLS）を担当するようになりました。

救急医療を必要としている患者を救い、そして元気に社会復帰していただくためには、病院到着後の医療・看護の質を向上するだけでなく、プレホスピタル（病院前）にフォーカスを当て、リスクの高い患者の家族への心肺蘇生やAEDの教育、心停止を未然に防ぐための予防教育が必要です。

大切な家族を守るために、「いつもとちがう…」と感じたら、次の行動に移せる勇気をもってもらえるよう、これからも活動していきます。



がん拠点病院に義務付けられている、年に1回の緩和ケア研修会（PEACE研修会）を今年度から12月に行うことにし、12月10・11日で開催しました。医師32名（内当院医師7名、当院研修医18名、他院医師6名、他院研修医1名）、当院看護師4名、当院薬剤1名の合計37名が2日間の研修を終えました。1日目の午後はロールプレイ、グループに分かれての症例検討2回、とワークショップが多く、疲れたのではないかと思います。最後まで熱心に取り組んでいただきました。2日目は座学が多く、少し眠たい時間帯もあったようですが、午後からのロールプレイは盛り上がりましていただきました。今年からは、県内の他のがん拠点病院の緩和ケア担当医（香川大学中条先生、三豊総合病院細川先生）にも講師として来ていただき、例年と少し違う雰囲気も出て良かったと思っています。また、現在治療中のがん患者さんに直接お話しをしていただいたことも皆の印象に残ったことと思います。受講生の皆さんをはじめ、準備から当日まで多岐にわたって協力いただいた地域連携室の皆さん、緩和支援チームの皆さん、ファシリテーターとして貴重な休日にご協力いただいた先生方のお陰で今年もスムーズな運営ができ紙面を借りて感謝したいと思います。今後も年1回継続されますので、興味のある方はどうぞご参加下さい。



中央NEWS 助産外来

4西病棟 看護師長 中西 ひとみ

助産外来は、正常に経過している妊婦さんを対象に、助産師が責任を持って診察する妊婦健診で、医師と同じ妊婦健診料を設定し実施しています。妊婦さん1人の健診時間枠は40分で、お待たせすることなく、通常の妊婦健診よりも時間をかけて、じっくり妊婦さんと向き合って個別的な対応をしています。助産外来受診者の満足度は高く「丁寧に時間をかけて診てくれた」「先生の時には聞きづらいことや言いにくいことも何でも自然に話せた」等の感想をいただいています。

私たち助産師は「母児の安全を最優先に、安心して満足できる出産体験を提供する」という目標を持って、妊婦さんの不安がないように、また、母としての心身の準備が整えられるように関わっています。助産外来を受診しない場合であっても、毎日病棟から助産師1名が外来に出向き、全ての妊婦さんに対してマタニティルームでの個別相談や指導を行っています。妊婦の皆さま、安心してお越しください。お待ちしております。



助産外来



マタニティルームでの指導

中央NEWS 病院祭を開催しました

11/23
(水)

総務企画課

11月23日（水）に第8回病院祭を開催しました。曇り空で少し肌寒い天気にもかかわらず、院内外から多くの方にご参加いただきました。

1階講堂においては、「認知症を考える～アルツハイマー病について～」（神経内科・森本部長）、「糖尿病について」（糖尿病内科・吉田部長）、「がん克服を目指して」（血液内科・川上院長補佐）という健康に関する3つのテーマについて、公開講座を実施しました。

また、1階ロビーにおいては、職員グループ「SWATS」、国際交流会館アイパルの職員・留学生、木太中学校吹奏楽部、瀬戸フィルハーモニー交響楽団、よさこいダンスチーム「極（きわみ）」による演奏等が行われました。きれいな音色や迫力のあるパフォーマンスに、多くの方が魅了されたのではないのでしょうか。

その他、子どもさんには水消火器での的当てや白衣の体験等の企画も楽しんでいただきました。今後も、このようなイベントを通して地域の皆さまとの触れ合いを大切にするとともに、安全・安心な医療・看護を提供し、信頼される病院を目指して日々努力してまいります。



～手のスプリントの紹介をします～

病 院 作 業 療 法 士 の 仕 事

リハビリテーション部 作業療法科 副主幹 三好美智代

こんにちは、香川県立中央病院リハビリテーション部作業療法科です。今回は作業療法整形外科部門より、個々の患者さんに応じて作成しているスプリントを紹介します。スプリントは手の骨折や腱損傷などの機能回復訓練として使用するものです。写真①をご覧ください。このスプリントは手指伸筋腱損傷の患者さんに作成した背側手指伸展保持スプリントです。自称「カブトムシ」。スプリント材をうまく加工して、カブトムシのような形を作り、手指の伸展保持のためにゴムと革で手指の動きを調節しています。写真②は手指屈筋腱損傷の患者さんに作成した背側型手関節Kleinart変法用スプリントです。爪にはスカートのホックを付け、ソフトスプリントや輪ゴムや安全ピンを利用しています。身近な材料で創意工夫していますが効果は抜群です。その他にも患者さんに応じてオーダーメイドで作成しています。作業療法士6名、患者さんの治療のために、試行錯誤しながら日々精進して行きます。



写真①



写真②

中央NEWS

医療セミナー

11/17 を開催しました

11月17日（木）、本院講堂において、「がん診療の新たな展開～免疫チェックポイント阻害薬の安全使用に関する取り組み～」と題して、医療セミナーを開催しました。講演は呼吸器内科の上田部長でした。参加者は医師等56名でした。今後も皆様のお役にたつ医療セミナーを開催していく予定です。



中央NEWS

緩和ケアセミナー

11/11 を開催しました

11月11日（金）、本院講堂において、「アドバンス・ケア・プランニング～いのちの終わりについて話し合いを始める～」と題して、緩和ケアセミナーを開催しました。講演は神戸大学大学院 医学研究科 先端緩和医療分野 特命教授 木澤義之先生でした。参加者は医師等110名でした。



腹膜透析学習会（ピースの会）開催のお知らせ

腹膜透析は、在宅でできる高齢者にも優しい腎代替療法の一つです。香川県の腹膜透析導入率は、全国で1位なのですが、まだまだ血液透析の導入率と比較すると少ないのが現状です。そこで、腹膜透析についての知識を深め、情報を共有するために、香川県内のご施設の皆様、訪問看護ステーションの皆様、地域の病院、クリニックの皆様、そのほか腹膜透析にご興味のある医療スタッフの皆様に腹膜透析学習会（ピースの会）を開催いたします。

- 日 時：平成29年3月5日（日）13時～16時
- 場 所：香川県立中央病院1階講堂
お車でお越しの方は、駐車券をお持ちください。
- 担 当：腎センター ※参加ご希望の方は、当院腎センターで申し込みを受け付けています。

医師の人事

異 動

転入 →



(10月1日付)
三島 桜子

産婦人科

岡山大学出身
(平成26年卒)
趣味/テニス、映画、
読書

一人前を目指して日々頑張ります。
よろしくお願ひします。



(11月1日付)
豊嶋 敦彦

脳神経外科

関西医科大学出身
(平成18年卒)
趣味/テニス、映画鑑賞、
買い物

適切な時期に、適切な治療を行うことを
心がけています。精一杯頑張りますので、
よろしくお願ひいたします。